

ゾノトーンの新製品ケーブルが売
れているらしい。ゾノトーンといえ
ば前園俊彦さんが新製品が即製作
者に結び付くケーブルといったら現
在ではゾノトーン以外にないので
ないか。

昔はたくさんあった。JBLのジ
エイムズ・ビー・ランシングしかり
マーク・レヴィンソンしかり。「その
人の音」というのが今はな
いということだ。

その人の音が必要なので
ある。会社の音ではなく人
の音。

前園さんの会社の広告に
は必ず前園さんの顔写真が
ついている。そのたびに私
は出たがりの人(失礼!)
だなあと思うのだが考えて
みるとその人の音を世の中
に示すにはそれが一番手っ取り早い。
前園さんは戦略家というより必要な
ことをやっているだけなのである。
我こそはと思う人はすべからず写真
戦法を採用し、「その人の音」を満天
下に表明したらい。オーディオは
会社名で売るより人で売るべしとの
教訓がここで得られる。

さてゾノトーンの音。そうだ、ふ

と思っただがゾノトーンではなく
「前園ケーブル」にすべきだったのだ。
前園さんらしくなく命名時に少し腰
が引けたのだろう。

前園ケーブル新製品の音は実体感
の充実そのものである。中低域が発
達しているから腰が見事に坐ってお
り音楽の太い骨格をこれでもかとい
かり目の前に具体化してみせる。ク

野の 靖蔵 寺島 武 オーディオ録

再び「人の音」の時代だろう

ヤブも関係な
い。
ラシツクもジ
ヤズも関係な
い。
少しほめす
ぎで気が引け
るが人々はこ
ういうケーブルを待っていたのでは
ないか。

実は私の店でアバンギャルドのス
ピーカーの一番大きな、大事なホー
ンに前園さんのスピーカー・ケーブ
ルを接続させたところ、その時はた
またまオーディオ・イベントの日だ
ったが、公開実験のようになり、私
も正直ひやひやしたものだだったが、

音が出た瞬間、客席から驚きともた
め息ともつかぬ、声にならない声が
出来し、私はしてやったりと大いに
留飲を下げたのである。

世界が変わってしまった。太
く、大きく。

前園さんが作ったケーブルで言う
と、これは以前も書いたことだが、
20年も30年も前、7Nピンケーブル、
ねずみ色の細いクニヤクニヤ・ケー
ブルが強烈に思い出され
る。2万円か3万円だった

があれを使った瞬間私はケ
ーブルに開眼し、私淑し、
遂に武蔵野のケーブル男と
い異名を頂戴するまでにな
ったのである。

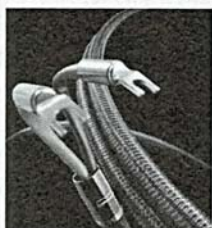
音は繊細過ぎたけれどその当時の
ケーブルのどれよりも鮮明感にすぐ
れ、高域など一体どこまで伸びてい
くんだと使用者が一樣に感動の態、
こぞって随喜の涙をこぼしたもので
ある。

しかし一夜明けたらがっかりして

いた。音楽の実体とはこういうやわ
な世界ではないだろう。骨なしのク
ラゲはたちまちにして正体がばれて
いた。

このケーブルを端緒にしてオーデ
イオ界は透明感という一見響きのい
い美名のもと、骨なしクラゲ音の世
界に突入していったのは皆さんご存
じの通り。

それから幾星霜。



7SP-shupreme 1 (スピー
カーケーブル)
¥231,000(Y/B端子
付き完成品, 2.0m×2)、
¥34,650/m(切り売り)



7NAC-shupreme 1 (イン
ターコネクトケーブル)
¥157,500(RCA,
1.0m×2)、
¥160,000(XLR,
1.0m×2)



7NPS-shupreme 1 (電源ケーブル)

ゾノトーンの新フ
ラッグシップ・シ
リーズ「シュプリ
ム」。このたび
電源ケーブルも発
売に。素材、構造、
ともに前園氏の長
年のこだわりと研
究が詰まった逸品
である

前園さんはクラゲならぬクジラの
ようなケーブルを新開発、自信をも
って世に問うたのである。
それが、何度も言うが売れに売れ
ているという。
このケーブルがオーディオ新時代
の幕開けになることを願ってやまな
い。